

わが家の防災メモ

緊急連絡先

連絡先	電話番号	連絡先	電話番号
開成町役場	0465-83-2331 (代表)	病院	
小田原市消防本部	0465-49-4410 (代表)	ガス会社	
松田警察署	0465-82-0110	電力会社	

災害用伝言ダイヤル「171」

災害用伝言ダイヤル「171」は、災害発生時に電話番号別にメッセージを録音したり聞いたりすることができるサービスです。公衆電話や携帯電話などからも利用できます。

171

- 伝言を録音するときは **1** ××××-××-×××× → 伝言を吹き込む
被災地の人は自宅の電話番号を、被災地以外の人は被災地の人の電話番号を市外局番から入力
- 伝言を再生するときは **2** ××××-××-×××× → 伝言を聞く

※注意点
家庭にある電話は停電すると使えなくなる場合があります。そのようなときのために無停電電源装置や、関連する機器にバックアップ乾電池を準備しておきましょう。

スマートフォン・携帯電話の「災害用伝言板」

震度6弱以上の地震など、大きな災害が発生した時に提供します。被災地の人が携帯電話の番号をキーにして安否情報を文字で登録、他社のスマートフォンや携帯電話などからも確認できます。

公式メニューや専用アプリから「災害用伝言板」を開く

- 伝言を登録する場合 → 「登録」を選択して伝言を入力する
- 伝言を確認する場合 → 「確認」を選択し、被災地の人の携帯電話番号を入力して伝言を見る

※注意点
携帯電話の電池切れに注意しましょう。また、家族のメールアドレスをきちんと把握しておくことも大切です。

防災情報・気象情報等を収集しよう

災害発生のおそれがある場合や災害発生時には、町から、防災に関する重要な情報をお知らせします。日ごろから、ホームページ、メール、ラジオなど、情報収集手段を確認しておきましょう。

町からの情報

●開成町ホームページ

防災に関するさまざまな情報が確認できます。



●開成町あんしんメール

事前にご登録いただいた携帯電話へ防災情報、気象情報や行方不明者情報などを配信しています。空メールを送信し、登録をしてください。

アドレス：bousai.kaisei-town@raidan2.ktaiwork.jp



●開成町公式SNS

LINE、Facebookを用いて防災情報をお知らせします。



●防災行政無線テレホンサービス

防災無線が聞き取りにくいとき、電話で放送を確認できます。
フリーダイヤル：0120-173-178 (24時間)

●データ放送

テレビ神奈川 (tvk)・J:COM湘南・神奈川等のテレビのデータ放送で防災行政無線の放送内容を確認することができます。

●J:COM「防災情報サービス」

町からの防災や行政に関する防災行政無線の情報を音声で受け取ることができます。現在、戸別受信機・防災ラジオを所有しておらず音声での放送の受け取りを希望される方は、J:COMカスタマーセンターへお問合せ・お申込みください (1年目は無料 / 2年目以降有料)
お問合せ・お申込み先 J:COMカスタマーセンター
フリーダイヤル：0120-999-000
(受付時間：9：00～18：00)

各種機関からの情報等

●神奈川県災害情報ポータル

県内の気象情報、地震や火山などの情報、避難発令情報、避難所情報などを確認できます。



●神奈川県雨量水位情報

県内の雨量、水位情報を確認できます。



●キキクル (危険度分布)

土砂災害・浸水害・洪水災害の危険度の高まりを地図上で確認できます。



●川の防災情報

河川の水位情報やカメラ画像などにより、洪水の危険性が確認できます(国土交通省)。



開成町 防災 ガイド



開成町避難所一覧表

地域避難所

災害が発生したときに、自主防災会が開設する避難所です。

番号	施設名	住所	地震	風水害
①	岡野老人憩の家	岡野186	○	○
②	金井島公民館	金井島94	○	○
③	上延沢自治会館	延沢1548	○	○
④	下延沢自治会館	延沢652-1	○	×
⑤	円中自治会館	中之名384	○	○
⑥	宮台老人憩の家	宮台134	○	○
⑦	牛島自治会館	牛島359	○	×
⑧	上島公民館	吉田島2470	○	×
⑨	河原町公会堂	吉田島2645	○	×
⑩	榎本公会堂	吉田島3231	○	×
⑪	中家村公民館	吉田島1665	○	×
⑫	下島自治会館	吉田島1610-1	○	×
⑬	パレットガーデン自治会館	吉田島4319-1	○	×
⑭	みなみ自治会館	みなみ2-6-1	○	×

指定避難所

地域避難所に収容しきれない場合に開設する避難所です。

番号	施設名	住所	地震	風水害
①	開成幼稚園	牛島336	○	○
②	文命中学校	吉田島1805	○	○
③	開成小学校	延沢625	○	○
④	開成南小学校	みなみ2-2-1	○	○
⑤	県立吉田島高校	吉田島281	○	○

指定緊急避難場所

大規模延焼火災などが発生したときに、一時的に大人数の収容が可能な避難場所です。

番号	施設名	住所	地震	風水害
①	金井島緑陰自由運動広場	金井島1322	○	×
②	開成水辺スポーツ公園	吉田島2710	○	×
③	中家村公園	吉田島780	○	×
④	開成駅前公園	吉田島4362	○	×
⑤	屋敷下第一公園	吉田島3813-2	○	×

指定福祉避難所

指定避難所、または地域避難所では収容できない避難行動要支援者を重点的に受け入れる施設です。

番号	施設名	住所	地震	風水害
①	開成町福祉会館	吉田島1043-1	○	○

浸水災害発生時一時避難場所

大規模な浸水災害が発生し、または発生するおそれがある場合に、一時的に避難する施設です。

番号	施設名	住所	地震	風水害
①	パナック工業(株) 開成工場	吉田島4301	×	○
②	富士フィルム(株) 先進研究所	牛島577	×	○
③	足柄上合同庁舎(第二別館)	吉田島2489-2	×	○
④	トルク工業(株) 開成工場	金井島130-1	×	○
⑤	エース物流サービス(株) 小田原センター	金井島990	×	○
⑥	南開工業(株) 宮台事業所	宮台646	×	○
⑦	大長寺(慈光殿)	吉田島3020	×	○

避難所の開設・混雑状況の確認

町が災害時に避難所を開設する際、株式会社バカンが運営する避難所の開設・混雑情報配信サービス「VACAN Maps(バカン マップス)」により、避難所の場所や、混み具合をスマートフォンやパソコンなどでリアルタイムに確認することができます。

この「VACAN Maps」は、アプリなどをダウンロードすることなく利用できます。スマートフォンやパソコンを持っていない人、取り扱いが苦手な人は、離れて暮らす家族や知人に確認してもらうこともできます。

なお、避難所の混雑状況は、「空いています」「やや混雑」「混雑」「満」の4段階で表示されます。

開成町 避難所の開設・混雑状況の確認

検索

避難所の開設・混雑情報配信サービス「VACAN Maps」



災害をイメージして家族で防災について話し合おう!

どんな災害がいつ、どこで起こるかわかりません。地震、台風、火災、噴火・・・、家にいるときか、寝ているときか、外出中なのか。いろいろな場面や時間を想定して、備えや対策を考えてみましょう。

家族とどこで集合するのか、ひとりで逃げられない人をどう救助するのかなど、日ごろから家族や地域での話し合いが必要になってきます。

災害に対する備え、何が必要なのかなど、漠然とした不安からイメージする力を身につけましょう。

家族で話し合うこと

1 家族一人ひとりの役割分担を決める

- 日常の防災対策の役割と、災害発生時の役割を決めておく。
- 家族に高齢者や障がい者、乳幼児などがいいる場合には、保護担当者を決める。



2 避難場所、避難経路を確認する

- 地域の避難場所を確認する。家族が離ればなれになったときの集合場所も決めておく。
- 休日などを利用し、家族で避難経路などの下見をしておく。



3 危険箇所をチェックする

- 家の内外に危険なところがないかチェックする。
- 危ない場所があったら、修理や補強について検討する。



4 非常持出品をチェックする

- 必要な物が揃っているかチェックする。
- 機器の保管状態や食べ物の消費期限も忘れずに点検する。



5 防災用具をチェックする

- 消火器や救急箱の場所、製造年月日などを確認する。
- 消火器の使い方を覚えておく。



6 マイ・タイムラインを作成する

- 家族構成や地域の特性に合わせて「いつ」「誰が」「何をするのか」をあらかじめ時系列で一覧表にまとめておく。
- 完成したら冷蔵庫やカレンダーの隣など普段から目に付く場所に貼っておく。



● 開成町避難所一覧表 / 災害をイメージして家族で防災について話し合おう!

非常持出品・備蓄品を準備しよう

非常持出品とは？

避難するときに持ち出す最小限の必需品です。リュックサックなど持ち出し袋が重すぎると避難に支障が出ます。必要最低限のものをまとめ、すぐ取り出せるところに保管しておきましょう。

●懐中電灯

できれば一人に一つずつ用意。予備の電池も忘れずに(発電式のものもある)。

●携帯ラジオ

小型で軽く、AMとFMの両方を聞けるもの。最近では手動で充電できるものや、携帯電話の充電ができるものなどがあり便利。

●非常食・水

缶詰や乾パンなど、火を通さずに食べられるもの。水はペットボトル入りが便利。

●スマートフォン・携帯電話

充電器・モバイルバッテリーも忘れずに。電池式があると便利。

●貴重品

多少の現金、預貯金通帳、印鑑、健康保険証、住民票のコピーなど。公衆電話を利用するための10円玉も。

●救急医薬品

傷薬、ばんそうこう、解熱剤、かぜ薬などのほか、常備薬があれば必ず用意する。

●その他

ヘルメット、下着類、タオル、軍手、ライター、ナイフ、ティッシュなど。



非常備蓄品とは？

災害の復旧や公的な援助などが行き届くまでの数日間を自力で生活するための用意です。少なくとも7日以上分の備えをしておきましょう。

●食料品

缶詰やレトルト食品など非常食3日分を含む7日以上を備蓄。高齢者や子ども、アレルギー体質者など配給される食事をとるのが難しい家族がいる場合には、その事情に合った食料を多めに準備。

●水

飲料水は大人一人あたり1日3リットルが目安で、7日分は用意する。水の配給を受けるためのポリ容器などもあると便利。

●燃料

卓上コンロや固形燃料、予備のガスボンベなど。

●工具

ロープ、バール、はさみ、のこぎり、ジャッキ、スコップなど。

●その他

簡易トイレ、毛布、寝袋、ラップ、食器類、使い捨てカイロ、マスク、シート、照明器具、筆記用具、予備のメガネなど。



「非常持出品」チェックリスト

品名	点検日記入欄	品名	点検日記入欄
<input type="checkbox"/> 非常食		<input type="checkbox"/> ろうそく・ランタン	
<input type="checkbox"/> 飲料水		<input type="checkbox"/> ライター(マッチ)	
<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ(予備の電池)		<input type="checkbox"/> ナイフ、缶切り、栓抜き	
<input type="checkbox"/> 懐中電灯(予備の電池・電球)		<input type="checkbox"/> ティッシュ(ウェットタイプ)	
<input type="checkbox"/> 携帯電話(充電器・モバイルバッテリー)		<input type="checkbox"/> タオル	
<input type="checkbox"/> ヘルメット・防災ずきん		<input type="checkbox"/> ビニール袋	
<input type="checkbox"/> 救急医薬品		<input type="checkbox"/> 上着・下着	
<input type="checkbox"/> 常備薬		<input type="checkbox"/> 軍手・靴下	
<input type="checkbox"/> 貴重品(預貯金通帳、印鑑など)		<input type="checkbox"/> シート	
<input type="checkbox"/> 現金			
<input type="checkbox"/> 健康保険証のコピー			
<input type="checkbox"/> 住民票のコピー			

「非常備蓄品」チェックリスト

品名	点検日記入欄	品名	点検日記入欄
<input type="checkbox"/> 食品(缶詰、レトルト食品、ドライフーズなど)		<input type="checkbox"/> ラップ・アルミホイルなど	
<input type="checkbox"/> 食品(調味料、スープ、みそ汁など)		<input type="checkbox"/> ウエットティッシュ、トイレトペーパーなど	
<input type="checkbox"/> 食品(チョコレート、あめなど)		<input type="checkbox"/> マスク、使い捨てカイロなど	
<input type="checkbox"/> 水(一人あたり1日3リットル、7日分)		<input type="checkbox"/> 簡易トイレ	
<input type="checkbox"/> 燃料(卓上コンロ、固形燃料、予備のガスボンベなど)		<input type="checkbox"/> 予備のメガネ、補聴器など	
<input type="checkbox"/> 毛布、タオルケット、寝袋など		<input type="checkbox"/> 工具類(ロープ、バール、スコップなど)	
<input type="checkbox"/> 洗面用品			
<input type="checkbox"/> 鍋・やかん			
<input type="checkbox"/> 簡易食器(わりばし、紙皿、紙コップなど)			

家族構成などに合わせた準備を！

非常持出品や非常備蓄品はマニュアルどおりのものをそろえるだけでなく、各家庭の構成や状況に合わせた準備が大切です。同様に定期的な見直しも必要です。



乳幼児のいる家庭

ミルク、ほ乳びん、おむつ、離乳食、スプーン、清浄綿、おんぶひも、バスタオルまたはベビー毛布、ガーゼなど。

妊婦のいる家庭

脱脂綿、ガーゼ、さらし、T字帯、清浄綿、新生児用品、ビニール風呂敷、新聞紙、せっけん、母子健康手帳など。

体の不自由な方がいる家庭

おむつ、車いす・白杖・補聴器・酸素ボンベといった補助具の予備、持病のための薬、障がい者手帳など。

備蓄品は多めに用意しましょう！

大きな災害の場合、電気・ガス・水道などのライフラインが途切れるだけでなく、道路の損壊などで公的援助「公助」が遅れるおそれがあります。自分の身は自分で守る「自助」の心がまえで、備蓄品はなるべく多めに用意しておきましょう。



■食料品は「循環備蓄(ローリング・ストック)」がおすすめ!

備蓄した食料品の賞味・消費期限切れを防ぐためには、循環備蓄(ローリング・ストック)がおすすめです。備蓄品を古いものから順に普段の食卓に並べ、食べた分だけ買い足します。定期的な賞味・消費期限のチェックにもなり、比較的期限が短いものでも非常食として役立つことができます。

南海トラフ地震に備える

地震災害による町の被害想定については、平成25～26年度に実施した県地震被害想定調査結果に基づくと、6つの地震が想定されています(表参照)。

特に、南海トラフを震源域とする地震は、開成町も「南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法」の南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されています。南海トラフ地震に備えましょう。

●町の被害想定地震

資料：開成町地域防災計画

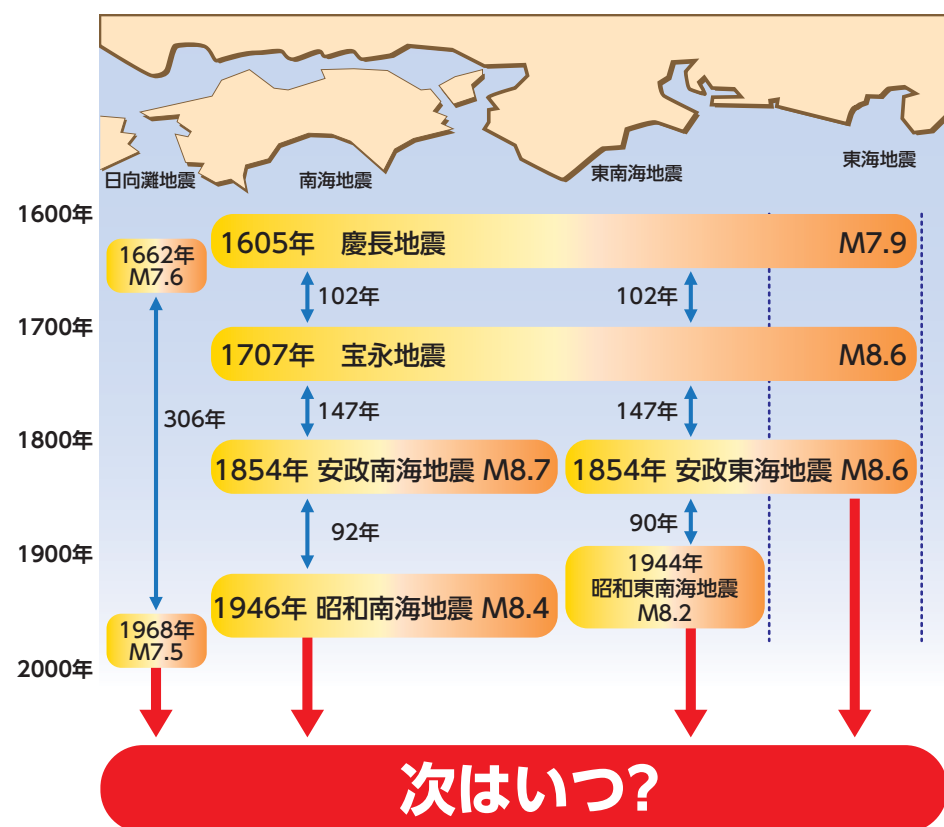
項目	想定地震	都心南部直下地震	三浦半島断層群の地震	神奈川県西部地震	東海地震	南海トラフ巨大地震	大正型関東地震
モーメントマグニチュード(Mw)		7.3	7	6.7	8	9	8.2
建物被害(棟)	全壊棟数	*	0	30	*	*	2,530
	半壊棟数	50	0	310	20	60	1,100
死傷者数(人)	死者数	0	0	*	0	0	100
	重症者数	0	0	*	0	0	70
	中等症者数	*	0	30	*	*	440
	軽症者数	10	0	40	*	10	410

※冬18時の想定。
 ※[*]：わずか(計算上0.5以上10未満)。
 ※[0]：計算上0.5未満は「0」とした。
 ※各欄の数値は1の位を四捨五入しているため、合計は合わないことがある。

南海トラフ地震はいつ起こる?

静岡県の駿河湾から九州の日向灘沖までのびる海底のプレートの境界が接する海溝(深海底の溝状の地形)を南海トラフといい、ここで起きる地震が「南海トラフ地震」です。

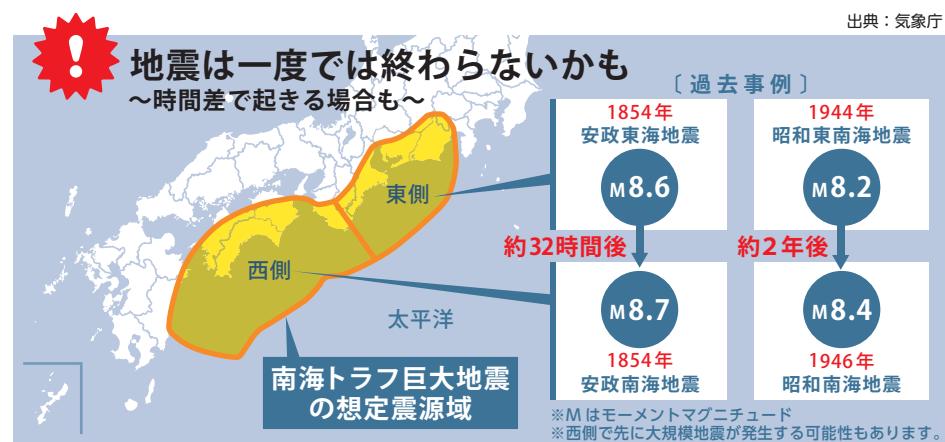
南海トラフでは100～150年間隔で大規模な地震が発生しており、前回の昭和東南海地震(1944年)および昭和南海地震(1946年)などを考慮すると、30年以内にマグニチュード8～9クラスの地震が70%～80%の確率で発生すると予測されています。



次はいつ?

南海トラフ地震臨時情報を知っていますか

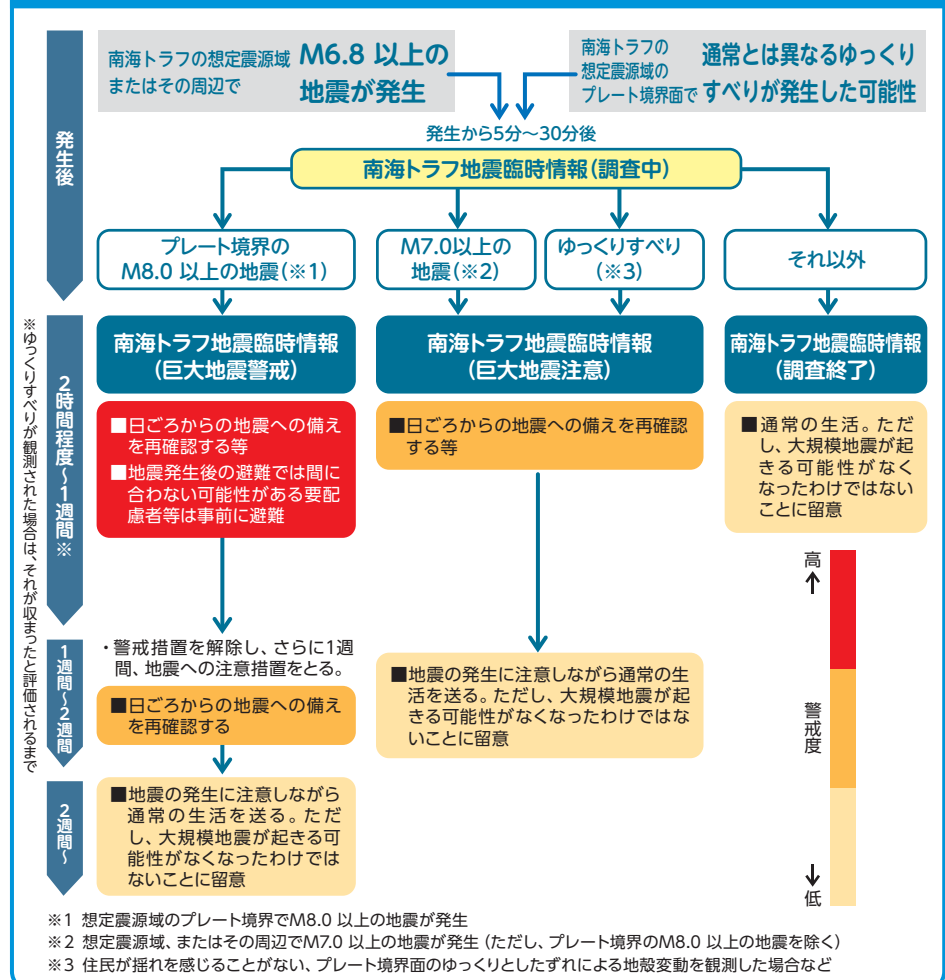
南海トラフでは想定震源域の東側と西側で、時間差で大規模地震が発生する事例があります。



時間差で発生する巨大地震に備えましょう

- 南海トラフ地震の発生可能性が通常と比べて相対的に高まったと評価された場合に気象庁から「南海トラフ地震臨時情報」が発表されます。
- 政府や地方公共団体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとりましょう。

南海トラフの想定震源域で地震が発生した場合などの防災対応の流れ



●南海トラフ地震に備える

家の中と周囲を安全にする 地震発生! そのときあなたは?

●家の中と周囲を安全にする / 地震発生! そのときあなたは?

家の周囲や家の中には危険なものがたくさんあります。ブロック塀の倒壊や家財の転倒・落下などは地震の被害を拡大させます。家屋の修繕や家具の固定など、できることから防災・減災対策をはじめましょう。

家の中の安全対策

- ガスコンロ**
安全機能(調理油過熱防止装置・立ち消え安全装置・コンロ・レンジ消し忘れ消火機能)を標準搭載したものがどうかを確認する。
- 照明器具**
つるすタイプの照明器具は、なるべく使わない。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで留めておく。
- 住宅用火災警報器**
煙や熱を感知すると警報音で知らせてくれる。10年に一度、交換する。
- 食器棚**
扉が開かないよう金具をつけて、中の食器が飛び出すのを防ぐ。
- カーテン**
防災加工されたものを使う。
- 窓ガラス**
飛散防止フィルムを室内側にはる。
- 冷蔵庫**
動かないよう固定する。
- 暖房器具**
ストーブなどの暖房器具は、対震自動消火機能を確認する。
- 本棚・タンスなど**
なるべく壁面に接近させておき、上部をL字型金具で固定するか、家具の下に板などをはさみ、壁面にもたせさせる。二段重ねの場合は、つなぎ目を金具で連結する。
- テレビ台など**
キャスター付きの家具はなるべく避け、使うときは、スリッパをかける。
- テレビ**
できるだけ低い位置に置き、金具やロープ、装着マットなどで下面・柱・壁に固定する。

家の周囲の安全対策

- 屋根**
屋根瓦やアンテナが不安定になっていないか確認し、問題がある場合は補強する。
- ベランダ**
整理整頓し、落下する危険がある植木鉢やエアコンの室外機は配置を換えるか固定する。
- 植木**
庭木の枝が敷地の外に出ているか定期的に確認する。
- 雨どい・雨戸**
雨どいの継ぎ目はずれしていないか、落ち葉や土砂などが詰まっているかをチェック。雨戸はたてつけが悪くなっていないかチェックし、問題があれば修繕する。
- プロパンガス**
倒れないように、しっかりとした土台の上に置き、鎖で壁面に固定しておく。
- ブロック塀**
耐震性をしっかり確認する。過去の地震ではブロック塀による犠牲者が出ているため、耐震性がないなら撤去や生垣にすることも考える。
- 玄関まわり**
自転車や植木鉢など、出入りに支障となるものは置かない。

大きな地震が発生したときは、一瞬の判断が生死を分けることもあります。いざというとき、あわてず冷静な行動をするために、地震発生時、地震発生直後、地震発生後の基本的な行動パターンを覚えておきましょう。

「地震発生時」の行動

地震発生! まずは身の安全を確保する

- 緊急地震速報や、大きな揺れがあったときは、まずは身の安全を最優先に行動する。
 - 丈夫なテーブルの下や、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見る。
- 【高層階(おおむね10階以上)での注意点】**
- 高層階では、揺れが数分間続くことがある。
 - 大きくゆっくりとした揺れで、家具類の転倒や落下、また大きく移動する危険がある。



「地震発生直後」の行動

火元の確認と初期消火

- 火を使っているときは、揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をする。
- 出火しているときは落ちついて消火する。



あわてた行動はけがのもと

- 屋内では、転倒や落下した家具類、割れたガラスの破片などに注意する。
- 瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくるので外に飛び出さない。



出口を確保する

- 揺れがおさまったのを確認してから、ドアや窓を開けて、避難ができるように出口を確保する。



危険箇所に近寄らない

- 屋外で大きな揺れを感じたら、ブロック塀、電柱、看板、自動販売機、橋などには近寄らない。



「地震発生後」の行動

状況に応じた避難

- 近隣に大きな火災が発生したり、津波のおそれのある場合は、状況に応じてより安全な場所へ避難する。



家族構成に応じた避難

- 家族に子ども、高齢者、障がい者などの避難に時間のかかる人がいる場合は、早めに避難を開始する。



まずは在宅避難を考える

- 火災などのおそれがなく、家の耐震性に問題がなかったら、まずは在宅での避難生活を考える(無理に避難所に行く必要はない)。そのために食料や水を備蓄しておく。



救護活動に協力する

- 倒壊家屋や家具の下敷きになった人などがいたら、近隣で協力して救出・救護する。



正しい情報を集める

- ラジオやテレビ、行政、消防、警察など信頼できる機関から正しい情報を集める。



避難の前に安全確認

- 避難が必要になったときは、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めてから避難する。



こんなところで地震が起きたら(屋内編)

■エレベーターの中では

- 最近のエレベーターは地震の揺れを感知すると自動的に最寄りの階に停止するが、自動で停止しない場合は、すべての階のボタンを押し、停止した階で外に出る。
- 閉じ込められた場合は、非常ボタンやインターホンで外部と連絡をとり、救出を待つ。



■スーパー等では

- 商品の落下やショーケースの転倒、ガラスの破片に注意する。手荷物で頭を守る。
- あわてて出口に向かわない。大規模店舗などは急に倒壊しないため、店員の指示に従って行動する。



■ホール等では

- 座席の間にうずくまり、かばんや衣類で落下物から頭を守る。
- 頭上に大きい照明などがある場合には、その場から移動する。
- 係員の指示に従い、冷静に行動する。



■学校・勤務先では

学校にいるとき

- 先生や校内放送の指示に従う。
- 教室にいるときは、すぐ机の下にもぐり、机の脚をしっかりと持つ。
- 本棚や窓から離れ、安全な場所へ移動する。屋外にいるときは、そのまま屋外にとどまる。



職場にいるとき

- 窓際やロッカー、資料棚などから離れて、机の下などに入り身を守る。
- 揺れがおさまったらガス給湯器などのスイッチを切るなど、火元を確認する。

倒壊の危険がある建物には立ち入らない!

2016年4月に発生した熊本地震では、震度7の揺れが2度発生しました。そのため、最初の大きな地震では倒壊をまぬがれながらも、2度目の強い揺れには耐え切れず倒壊してしまった家屋が多数ありました。強い揺れによって家屋が被災した場合には、余震などによる二次被害のおそれがあるので、なるべく立ち入らないようにしましょう。

■「応急危険度判定」は緊急的、暫定的なもの

地震発生後には、建築の専門家が被災した建物の状況を見て回る「被災建築物応急危険度判定」が行われます。判定された情報に十分注意して行動するようにしましょう。

この判定は、地震直後の居住者や付近を通行する人の安全を確保するために、緊急で行われる暫定的な判定で、罹災証明のためのくわしい調査ではなく、恒久的に使用できるか判定するものではありません。総合判定は「危険(赤)」「要注意(黄)」「調査済(緑)」の3種類に分けられます。



こんなところで地震が起きたら(屋外編)

■路上では

- 手荷物などで頭を守り、広場などへ移動する。
- 繁華街ではガラスや看板などの落下物に注意。住宅街ではブロック塀や門柱から離れる。
- 自動販売機の転倒や壁の倒壊に注意する。



■電車やバスの中では

- 停車の衝撃に備え、つり革や手すりしっかりとつかまる。
- 網棚からの荷物の落下に備え、手荷物で頭を保護する。
- 勝手に車両から降りず、係員の指示に従う。



■がけ付近では

- がけ付近にいたら、崩れる危険性のある場所からすぐに離れる。



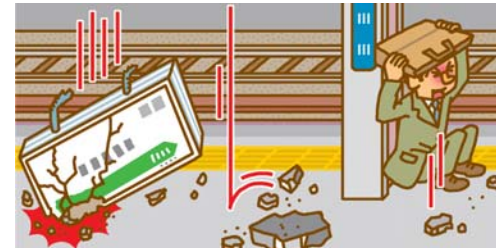
■車の運転中は

- 徐々にスピードを落とし、道路の左側に停止してエンジンを切る。
- 揺れがおさまるまでは車外に出ず、カーラジオなどで情報を確認する。
- 車を置いて避難する場合は、道路外の場所に移動する。
- やむを得ず道路上に置いて車を離れるときは貴重品を持ち、キーはつけたままでロックもしない。



■駅のホームでは

- 掲示板や看板などの落下物に注意する。
- 改札口に殺到するとパニックになる。大きな揺れがおさまるまで、近くの柱に寄り添い、構内アナウンスに従う。



防災・減災キーワード

車の避難はひかえましょう!

地震発生時は、消防車などの緊急車両の通行を確保することが大切です。みんなが車を使って避難すると、緊急車両や避難する人たちの邪魔になり、混乱を大きくしてしまいます。どうしても車を使わなければならない場合以外は、徒歩で避難しましょう。

風水害に備える

日本は梅雨前線や秋雨前線の活動、台風の影響などにより、全国各地で大雨が発生します。また、日本は全人口の約50%が洪水氾濫地域に住んでいます。風水害から大切な家族と財産を守るために、日ごろからしっかり対策を立てて、風水害から身を守りましょう。

河川の氾濫

大雨などで河川の水が堤防からあふれたり、堤防が決壊して氾濫が発生した場合、甚大な被害が広域に及ぶ危険があります。国や都道府県では気象庁と共同で河川の水位の変化に応じて洪水予報を発表しています。



警戒レベルと避難情報

気象庁から発表される5段階の警戒レベルと町が発令する避難情報の意味を正しく理解して、逃げ遅れることのない安全な避難行動に活かしましょう。

警戒レベル	状況	避難情報	住民がとるべき行動	気象情報等
5	災害発生または切迫	緊急安全確保 (町が発令)	命の危険 直ちに安全確保! 災害が発生、またはまさに発生しようとしている場合、高所への移動、近くの堅固な建物への退避、屋内の屋外に面する開口部から離れた場所への待避など緊急に安全を確保しましょう。	・大雨特別警報 ・氾濫発生情報 など
~~~~~ <警戒レベル4までに必ず避難!> ~~~~~				
4	災害のおそれ高い	避難指示 (町が発令)	危険な場所から全員避難 危険な場所から全員避難しましょう。	・氾濫危険情報 ・氾濫警戒情報 など
3	災害のおそれあり	高齢者等避難 (町が発令)	危険な場所から高齢者等は避難 避難に時間のかかる高齢者や障がいのある人とその支援者などは危険な場所から避難しましょう。	・大雨警報 ・洪水警報 など
2	気象状況悪化		自らの避難行動を確認 ハザードマップなどで自らの避難行動を確認しておきましょう。	・大雨注意報 ・洪水注意報 など
1	今後気象状況悪化のおそれ		災害への心構えを高める 最新の防災気象情報などに注意して、災害への心構えを高めましょう。	・早期注意情報

## 氾濫時の要注意ポイント

### 地下空間から早めに避難

- 地上の様子が分からず逃げ遅れる危険があります。
- 地上が冠水すると一気に水が流れ込み、流れ落ちる水で階段は上れません。
- 20cm浸水すると、流れ込む水圧で部屋のドアは開かなくなります。

### アンダーパスは通らない

- 鉄道や道路の下をくぐる場所(アンダーパス)は水がたまりやすいので、大雨のときは通らないようにしましょう。
- 60センチ程度の水位でドアが開かなくなるので、車が止まったら直ちに脱出しましょう。
- 緊急脱出用ハンマーを車内に備えておきましょう。



## 浸水被害から避難するときのポイント

### 避難は早めに

なるべく周囲が浸水する前に地域で声をかけ合って避難しましょう。特に夜間に大雨が予想されるときは、夕方までに避難しましょう。



### 動きやすい服装で

荷物は最小限にして背負い、両手が使えるようにしましょう。長靴は水が入って動きにくくなるので、運動靴で避難しましょう。



### 長い棒を利用する

長い棒などを杖のかわりにし、浸水して見えなくなっている道路の側溝やマンホール、くぼみや障害物などに注意しましょう。



### 浸水後は車で避難しない

車は浸水でエンジンが止まったり水没したりする危険があります。車で避難するなら浸水前に。浸水している場合は、徒歩で避難しましょう。



### 河川などに近づかない

増水した河川など危険箇所の様子を見に行くのはやめましょう。



### 無理をしない

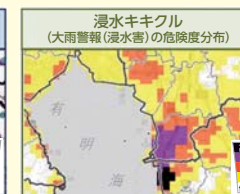
歩行可能な浸水深の目安は約50cm。流れがある場合はそれ以下でも危険。避難が遅れたら高い場所で助けを待ちましょう。



## 防災・減災キーワード

### 「洪水キキクル」と「浸水キキクル」の危険度分布

洪水キキクルは、大雨による洪水災害発生の危険度の高まりを地図上で5段階に色分け(危険度は低いほうから白色→黄→赤→紫→黒の順に高い)で示す情報です。10分ごとに更新されるので、洪水警報等が発表されたときに、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。



また、浸水キキクルは、短時間強雨による浸水災害発生の危険度の高まりを地図上で5段階で色分け(危険度は低いほうから白→黄→赤→紫→黒の順に高い)で示す情報です。10分ごとに更新されるので、どこで危険度が高まっているかが詳しくわかります。

気象庁 キキクル

検索



# 大雨に備える

日本では、毎年のように台風や大雨による被害が発生しています。日ごろから気象情報に関心を持ち、雨風が強まってきたときは確実にチェックする習慣をつけましょう。

## 日ごろから行っておくこと

### 1 自宅周辺の災害危険度を把握しておく

水害は地形からある程度危険度を推測することができます。自宅がある場所や周辺が、浸水想定区域に含まれているか、ハザードマップで確認しましょう。自宅がある地域が周囲の地域より低地にあれば浸水する危険性が高いことを理解しておきましょう。

また、昔の地図と比較して、かつて川であったとか、田んぼであったなど、地歴を調べておくことをオススメします。さらに、地名にはその地に起こった災害を示している場合があります。その土地の過去の水害などの災害事例と併せて調べてみると良いでしょう。



### 2 非常持出品を準備しておく

避難時にすぐ持ち出せるように、非常持出品をリュックサックなどにまとめて玄関の近くに置いておきましょう。持病の薬や予備のメガネ、マスク、アルコール消毒液、体温計なども一緒にしておけば、いざというときあわてて取りに戻らずに済みます。



### 3 避難所・避難経路などを確認しておく

町が指定している避難所の位置、そこに到達するための避難経路は複数確保できているか、家族で確認しておきましょう。地域の防災訓練に家族で参加し、避難にかかる時間なども確認しておきましょう。



### 4 家の周りを確認しておく

- 雨どい** 継ぎ目ははずれや塗装のはがれ、腐りがないか確認。落ち葉や土砂で詰まらせないように掃除しておく。
- 屋根** 瓦のひび、割れ、ずれ、はがれ、トタンのめくれ、はがれがないかを確認。
- ベランダ** 強風に飛ばされそうな物は置かない。
- 外壁** モルタルの壁に亀裂はないか、板壁に腐りや浮きはないか、プロパンガスのボンベは固定されているか、などを確認。
- 雨戸** がたつきやゆるみなどがあれば補強する。
- 側溝** 側溝のごみや土砂を取り除き、雨水の排水をよくしておく。
- 窓ガラス** ひび割れ、窓枠のがたつきはないか確認。また強風による飛来物などに備えて、外側から板でふさぐなどの処置を取る。
- ブロック塀** ひび割れや破損箇所は補強する。

# 洪水ハザードマップを確認しよう

「開成町洪水ハザードマップ」は、神奈川県が作成し公表している「浸水想定区域図」に、避難所や避難情報などを示したものです。水防法が改正され神奈川県が開成町に開成町酒匂川、仙了川及び要定川の浸水想定区域が更新されたため、開成町においても洪水ハザードマップを更新しました。

もしもの場合に備えて、水害から身を守るために日ごろから家庭や地域で話し合い、避難経路の確認など安全な避難行動に役立ててください。

## 開成町洪水ハザードマップの活用方法について

洪水ハザードマップを見て自分の家に印をつけてください。

●自分の住んでいる場所がどのくらい浸水する可能性があるかを知っておきましょう。

避難所を確認しましょう。

●自分の家から避難所までの安全な経路を確認しておきましょう。  
※夜間や浸水時には、道路と水路の区別がつきにくくなりますので、ガードレールや電柱など、目印となるものがある道路を選びましょう。

●緊急時や避難所周辺が冠水しているような場合は、近くにある高い建物などに避難してください。

●河川の氾濫の恐れがあるときは、町から避難指示が出しますので、速やかに避難してください。

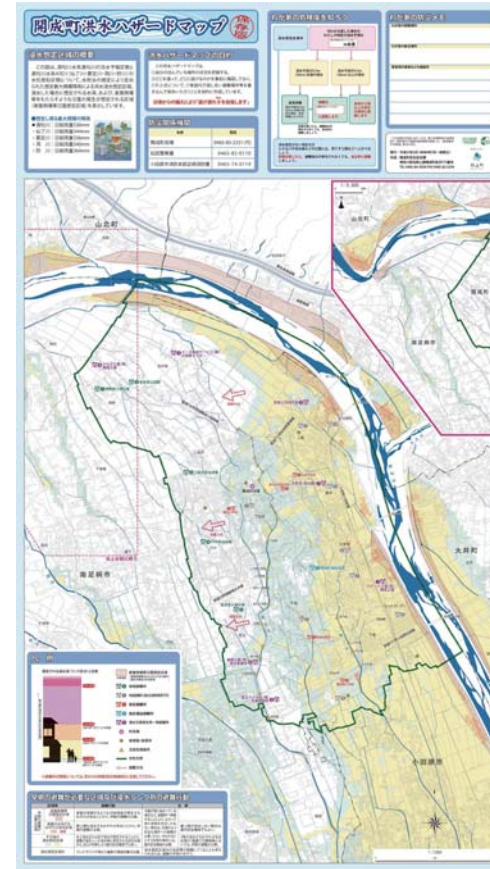
各家庭で話し合いをしましょう。

●わが家の避難所、家族の集合場所、避難時の緊急連絡先、非常持出品の置き場所を確認し、各家庭で災害時に、どのように行動するのかを話し合いましょう。

見やすい場所に貼りましょう。

●いざというときに備え、避難所までの経路などを書き込んで、いつでも目につくような場所に保管しましょう。

●開成町洪水ハザードマップ  
二次元コードはこちら→



## 「難」を「避ける」ための避難の考え方

災害が発生し、家屋内に留まることが、危険な状態になった場合は、落ち着いて素早く避難する必要があります。多くの住民が避難する避難所は、3つの密（密閉・密集・密接）になりやすく、感染症拡大のおそれがあるため、町が開設する避難所だけではなく、可能な場合は、安全な場所に住む親戚や友人宅への避難も検討するようにしましょう。

**避難行動 ①**

早めに安全な知人・親戚宅へ避難

**避難行動 ②**

町が開設する避難所へ避難

**避難行動 ③**

避難することが、かえって危険なときは屋内安全確保



### 「命を守る避難行動」～立ち退き避難と屋内安全確保

大雨のときには、上記の避難行動①や避難行動②のように早めに安全な場所へ避難する「立ち退き避難」が原則です。しかしながら、夜間や急な大雨等で家の外に避難することが、かえって命に危険を及ぼしかねないときは、少しでも命が助かる可能性の高い避難行動として、2階以上の安全な場所（部屋）へ移動し、安全を確保（屋内安全確保）することが重要です。



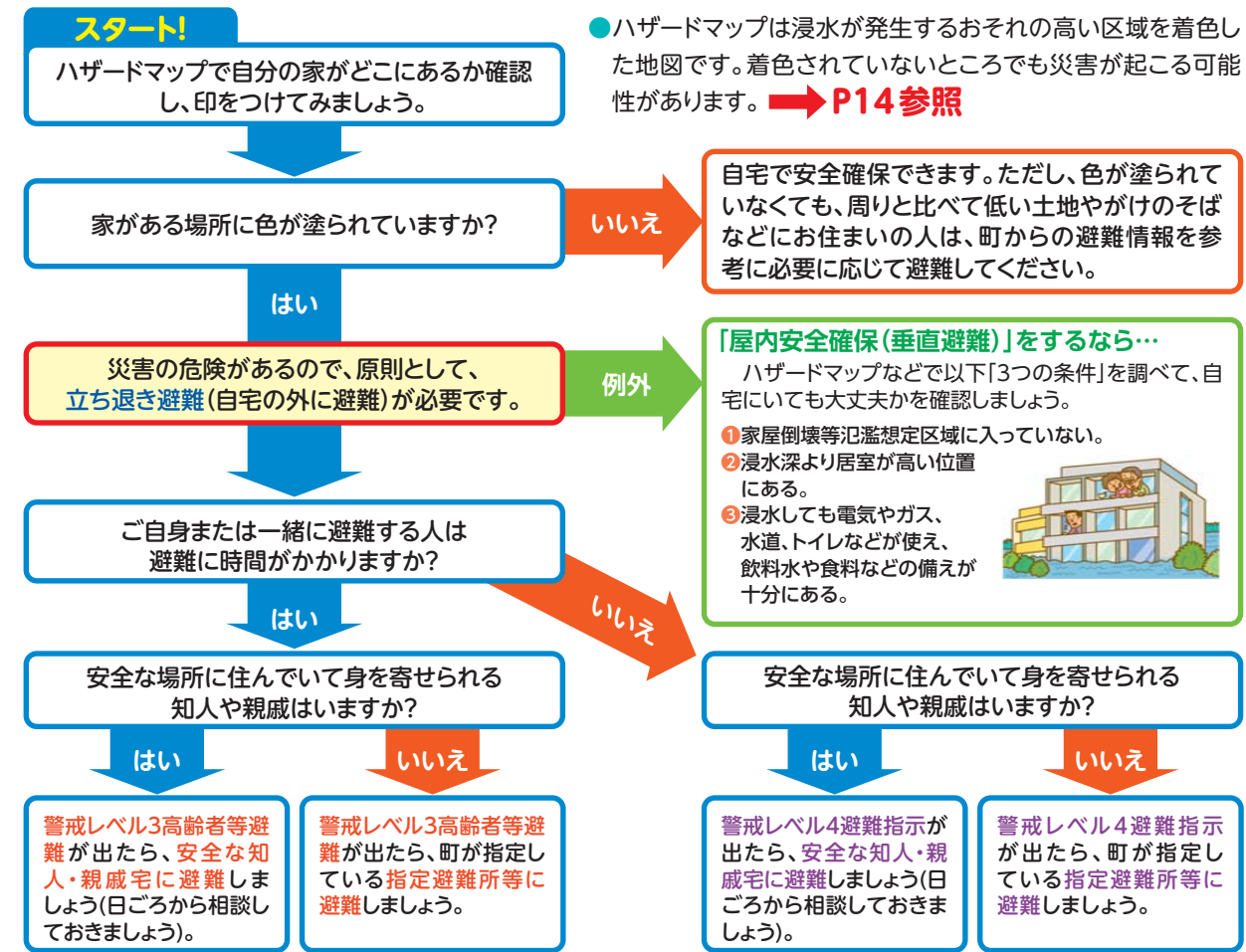
●大雨に備える／洪水ハザードマップを確認しよう



# 避難行動のフローチャート

# 火災による被害をなくすために

台風や豪雨に備えて、ハザードマップと一緒に「避難行動のフローチャート」を確認しましょう。家族と一緒に、住んでいる地域の災害リスクと、とるべき行動を確認し、災害時に適切な避難行動がとれるようにしましょう。



## 覚えておこう! 土砂災害の種類と特徴

開成町はなだらかな平坦地であることから、神奈川県が指定する土砂災害警戒区域等から除外されています。ただ、一瞬にして大きな被害をもたらす土砂災害は早めに避難するしかありません。町外にいるときに、土砂災害の被害に遭わないためにも、土砂災害についての知識は持っておきましょう。

<p><b>土石流</b></p> <p>山腹や谷川の石や土砂が一気に下流へ押し流される現象です。</p>  <p><b>こんな前兆現象に要注意!</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●山鳴りがする。</li> <li>●川が濁り、流木がまざり始める。</li> <li>●腐った土のにおいがする。 など</li> </ul>	<p><b>がけ崩れ</b></p> <p>斜面が突然崩れ落ちる現象です。</p>  <p><b>こんな前兆現象に要注意!</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●小石が斜面から落下する。</li> <li>●斜面にひび割れができる。</li> <li>●斜面から湧き水が出てくる。 など</li> </ul>	<p><b>地すべり</b></p> <p>山地の斜面をつくる岩石や土壌が、斜面下方へ移動する現象です。</p>  <p><b>こんな前兆現象に要注意!</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地面にひび割れや段差ができる。</li> <li>●井戸や沢の水が濁る。</li> <li>●地面が振動する。 など</li> </ul>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

火災による被害をなくすためには、日ごろから火災を発生させないように注意するのはもちろんですが、万が一出火したときにどのように行動すべきか覚えておくことも大切です。被害を最小限におさえるために、家族、地域ぐるみで防火意識を高めましょう。

## 初期消火は出火直後に!

出火の現場に居合わせたら、まず「通報」「初期消火」「避難」が大切です。優先順位は状況により異なります。出火直後なら「通報」と「初期消火」の優先順位が高くなりますが、そのために逃げ遅れては大変です。あわてず冷静な判断を心掛けましょう。

<p><b>行動1 通報</b></p> <p><b>大声で「火事だ!」と叫ぶ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●大きな声で叫び、隣近所に知らせる。声が出ない場合は、非常ベルや音の出るものをたたく。</li> <li>●どんなに小さな火事でも119番通報をする。</li> </ul>	<p><b>行動2 初期消火</b></p> <p><b>出火直後が勝負</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●出火直後なら初期消火は可能。落ち着いて、素早く対応する。</li> <li>●コップに入った水や座ぶとんなど、身近なものを最大限に活用する。</li> </ul>	<p><b>行動3 避難</b></p> <p><b>危険を感じたらすぐ避難</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●火が天井に達したら初期消火は難しい。無理をせず避難する。</li> <li>●避難するときは、部屋の窓やドアを閉めて空気を遮断し、速やかに行動する。</li> </ul>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 火元別の消火方法を覚えておこう

<p><b>ストーブ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●消火器は直接火元に向けて噴射する。石油ストーブの場合は粉末消火器を使用する。</li> <li>●消火器がない場合は、水にぬらした毛布などを手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。</li> </ul>	<p><b>電気器具</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●コンセントを抜くか、ブレーカーを切り、粉末消火器で消火する。泡消火器などは感電のおそれがあるので使用しないようにする。</li> </ul>	<p><b>カーテン・ふすま・障子</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●カーテンなどは上に燃え広がる前の対処が重要。火がついたら、引きちぎってから消火する。</li> <li>●ふすまや障子などは、床に倒し、靴で踏んで消す。その後、水をしっかりかけて消火する。</li> </ul>
<p><b>こんろ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●油鍋の場合、水をかける、マヨネーズや野菜を入れるのは厳禁。</li> <li>●粉末消火器は鍋の全面を覆うように、強化液消火器は鍋のふちに向け、噴射する。</li> <li>●消火器がない場合は、ぬらしたシーツやバスタオルを手前からかぶせ、空気を遮断する。</li> </ul>	<p><b>たき火</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●消火器を使う。</li> <li>●消火器がない場合は水をかける。</li> <li>●水の準備ができないときは、近くのほうきや木でたたいて消し、その後、水をしっかりかけて消火する。</li> </ul>	<p><b>逃げるタイミングは火が天井に達したら!</b></p> <p>人命が最優先です! 火が天井に達したときや、煙が充満したときなど、危険を感じたら、すぐに避難しましょう。 また、避難するときは、周囲の人への声かけも忘れずに。</p>

## 地震火災を防ぐために

大きな揺れを感じたら、まずは身を守ることが最優先です。最近では地震時に自動的にガスの供給を停止させるガスマイコンメーターの設置が進んでいるので、やけどなどの危険をおかしてまで火を消すことはありません。大きな揺れがおさまってから火を消し、ガスの元栓を閉めましょう。また、地震時の火災で注意したいのが「**通電火災**」です。通電火災に備えて、地震の揺れを感知し、自動的に電気の供給を遮断する感震ブレーカーを設置しましょう。




**通電火災に気をつける!**

揺れがおさまれば、身のまわりの安全が確保できたら、二次災害、特に通電火災(地震や風水害により停電した電気が復旧した際に起こる火災)の発生を防ぐための対策を確認しておきましょう。

- 電気器具のスイッチを切って、プラグを抜く
- 避難するときはブレーカーを切る

火災の発生を防ぐために、アイロン、ドライヤー、電気ストーブなどの熱器具は、すぐにコンセントから抜きましょう。

電気の消し忘れによる事故を防ぐために、避難する場合は、分電盤のブレーカーを切りましょう。日ごろから分電盤の位置を確認し、付近に物を置かないようにします。



# 富士山の噴火に備える ～ 富士山ハザードマップが改定されました

●富士山の噴火に備える～富士山ハザードマップが改定されました

富士山は過去5,600年間に175回の噴火記録がある活火山です。

富士山が噴火した場合、神奈川県内が受ける影響は、これまで降灰による影響のみ想定されていましたが、新たな火口が発見されたなどの要因により、17年ぶりに富士山ハザードマップが改定され、神奈川県内7市町(相模原市、小田原市、南足柄市、大井町、松田町、山北町、開成町)に、新たに溶岩流が到達する可能性があることが発表されました。

活火山であることを認識して、火山情報が発表された場合には、情報に注意してください。

## 溶岩流が開成町に到達する可能性がある2つの噴火

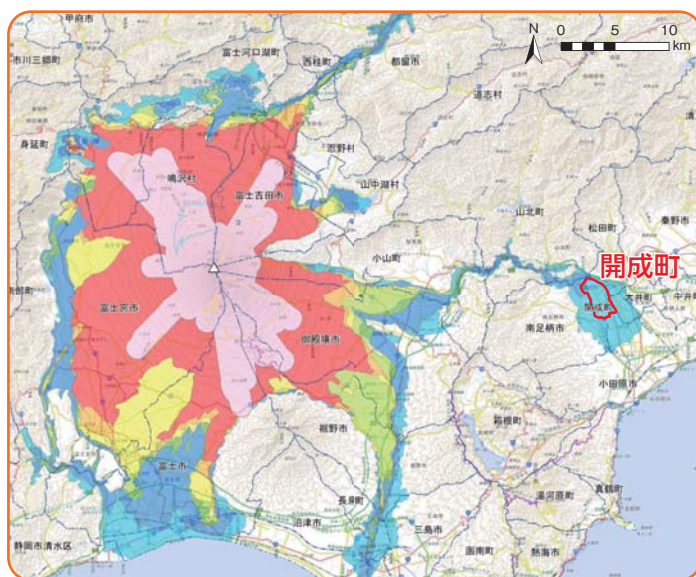
### 1 大規模噴火(最大13億m³の溶岩流の流出)

大規模噴火が予想される噴火口69箇所のうち、3箇所の噴火口のいずれかで噴火が発生した場合は、**開成町全域に溶岩流が到達(最短で17日と5時間)**する可能性があります。

### 2 中規模噴火(最大2億m³の溶岩流の流出)

中規模噴火が予想される噴火口91箇所のうち、2箇所の噴火口のいずれかで噴火が発生した場合は、**町内の北部地域まで溶岩流が到達(最短で5日と8時間)**する可能性があります。

### ■ 溶岩流可能性マップ



凡例	
△	山頂
---	行政界
■ (赤)	噴火する可能性のある範囲
■ (赤)	溶岩流が2時間で到達する可能性のある範囲
■ (オレンジ)	溶岩流が3時間で到達する可能性のある範囲
■ (黄)	溶岩流が6時間で到達する可能性のある範囲
■ (黄緑)	溶岩流が12時間で到達する可能性のある範囲
■ (緑)	溶岩流が24時間で到達する可能性のある範囲
■ (青)	溶岩流が7日間で到達する可能性のある範囲
■ (水色)	溶岩流が最終的に到達する可能性のある範囲(最大57日)

## 溶岩流が開成町に到達する可能性は？

中・大規模噴火であっても溶岩流が開成町に到達する可能性は限りなく低く、むやみに恐れる必要はないと考えられます。

しかし、改定ハザードマップの基礎となった溶岩噴出量は、過去の噴火履歴(大規模噴火:5600年間で1回、中規模噴火以上:5600年間で7回)をもとに想定されたものであるため、**最悪の事態として日ごろから備えておくことが重要**です。

## 今後の町の取り組み事項

### 県、富士山火山防災協議会との調整

- 広域避難先 ● 広域避難経路
- 避難時の応援職員要請 ● 避難開始時期

### 広域避難要領の具体化

- 富士山火山避難計画の作成

### 報道対応、住民説明等

- 報道機関への取材対応、住民説明会の実施

### 広域避難に関する訓練等の実施

- 図上訓練 ● 避難訓練

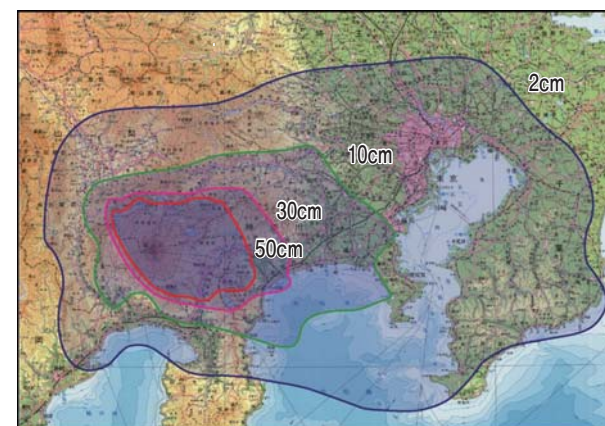
## 降灰による影響

噴火に伴い空から降ってくる火山灰や小さな噴石は、広範囲に及ぶとともに、降灰の量に応じてさまざまな被害をもたらします。

降灰については、今回は改定されず、2004年に「富士山ハザードマップ検討委員会」が宝永噴火(1707年)と同規模の噴火があった場合を想定したままです。

開成町は30～50センチの火山灰が積もるとされています。降灰などから被害軽減となる対策をとりましょう。

### ■ 降灰の可能性マップ



### ● 交通障害

- 視界不良により航空機や鉄道などの運行に支障が生じる。
- 航空機などのエンジンが故障する。
- 信号や踏切が故障し、鉄道の運行に支障が生じる。
- 道路に降り積もった火山灰で自動車がスリップする。

### ● ライフラインへの影響

- 送電設備が故障して停電する。
- 水道施設への降灰により給水などに支障が生じる。

### ● 健康被害

- 目、鼻、のどなどに異常が起きる。
- ぜん息の症状の悪化や呼吸器疾患が発症する。

### ● 商工業への影響

- 商品の上に火山灰が積もり、商品価値を損なう。
- コンピューターや精密機器が故障する。
- 交通機関のマヒにより商品供給に支障が出る。

### ● 建物被害

- 降り積もった火山灰の重みで屋根が崩れる。
- 小さな噴石により屋根や太陽電池パネルなどが破損する。

### ● 農作物被害

- 日照不足や降り積もった火山灰などにより農作物の収穫に支障が生じる。
- ビニールハウスの取手が損傷する。
- 農業用水の取水・排水路が降灰で流れにくくなる。

## 降灰から身を守る

### 降灰前に準備しておくもの

- 防塵マスクと防護めがね。
- 最低7日分の十分な飲料水。
- 最低7日分の家族とペット用の食料や生活用品。
- ラップ(電化製品に火山灰が入らないようにするため)。
- 清掃用具(ほうき、掃除機とその交換用ゴミ袋・フィルター、ショベル)。
- 自動車内に閉じ込められる可能性もあるので、車内にも防災用品を準備する。

### 屋外での注意事項

- **火山灰を吸い込まない**  
マスクを着用する。マスクがない場合は、水で濡らしたハンカチなどで口と鼻を覆う。
- **皮膚を守る**  
長袖・長ズボン、タオル等で皮膚を覆う。
- **目を守る**  
防塵ゴーグルや雨傘、帽子・ヘルメットの着用が望ましい。万が一、灰が目に入った場合は、こすらずに水で洗い流す。
- **交通事故に気を付ける**  
降灰により見通しが悪くなり、路面標示も見えにくくなるため、車のヘッドライトの点灯や懐中電灯(徒歩の場合)を点灯させる。

### 降灰中にすること

- パニックに陥らず、冷静に行動する。
- 外出はなるべく控え、帰宅時は、うがい、手洗い、洗顔などを行う。
- マスクやハンカチ、もしくは衣類で鼻と口を覆う。
- コンタクトレンズは付けない。
- 仕事中に火山灰が降り始めてしまった場合は、火山灰が降り止むまで屋内に留まる。
- 可能な限り自動車の運転は避ける。

### 屋内での注意事項

- ドアや窓を閉める。
- 湿ったタオルをドアの隙間や通気口に置く。隙間風が入る窓にはテープをはる。
- 壊れやすい電化製品にカバーをして、周囲の火山灰が完全になくなるまでカバーを外さない。
- 給水施設に大量の火山灰が混入している場合は、食器洗い機や洗濯機は使わない。

特に大きな災害が起こったときは、そこにいる地域住民がみんなで助け合う「共助」が不可欠です。日ごろから地域の人たちで構成する自主防災組織に積極的に参加して、いざというときに備えましょう。

## 自主防災組織とは？

自主防災組織とは、地域住民が協力して防災活動を行う組織のことをいいます。

日ごろは、防災知識の普及啓発、防災訓練や地域の防災安全点検の実施、防災資機材の整備といった活動に取り組みます。

そして、いざ災害が起こったときには、避難所の開設・運営、初期消火活動、住民の避難誘導などに従事します。



## 平常時の活動

### 防災知識の普及

防災マップの作製、タウンウォッチング・防災講習会・映画上映会の開催、地域のお祭りや運動会などでの防災イベントの実施など。

### 防災巡視・防災点検

防災倉庫の備品や消防水利の確認、燃えやすいものの放置状況、ブロック塀や石垣、看板、自動販売機など、倒れやすいものの点検など。

### 防災資機材の整備

ヘルメット、消火器、担架、ハンマー、バール、大型ジャッキなどの作業道具、非常食品、救急医薬品等の防災資機材や備蓄品の管理など。

### 防災訓練の実施

自主防災組織災害対策本部設置訓練、避難所開設・運営訓練、避難誘導訓練、初期消火訓練、応急救護訓練、情報収集・伝達訓練、被災状況報告訓練、給食(炊き出し)訓練など。

## 災害時の活動

### 避難所の開設・運営

避難所の開設、地域住民の避難誘導や安否確認、食料や物資の運搬・配布、施設内の衛生管理など。

### 情報の収集・伝達

自治体などと連絡を取り合い、災害に関する正しい情報を住民に伝達、状況報告など。

### 初期消火活動

出火防止のための活動や消火器、消防水利の確認、バケツリレーなどによる初期消火活動など。

### 救出・救護活動

負傷者や倒壊した家屋などの下敷きになった人たちの救出や負傷者の応急手当、救護所への搬送など。

## 町が取り組む防災講座

町では、町民が危機管理の基礎知識及び応急手当等の実践知識を習得し、地域における災害の防止、軽減、予防のため町民の自主的な地域防災活動のリーダーとして活動する方の育成を目的に、防災講座等を開催しています。

### 1 防災講座

防災講座は、防災行政無線機、発電機及びAEDの取り扱い、避難所開設手順など、自助、共助に必要な知識を学ぶため全6回の講座を開催しています。

#### 【受講資格】

町内にお住まいの方

### 2 地域防災リーダー養成講座

地域防災リーダー養成講座は、地域の防災活動の指導役として、地域と町を結ぶ人材を養成することを目的に開催しています。

#### 【受講要件】

- (1) 町が実施する開成町防災講座を受講し修了証を交付された方
- (2) 市町村消防団に所属し副団長以上の役職経験者
- (3) 防災士の資格を有する方
- (4) 消防職員として消防に関する業務に10年以上従事した方
- (5) その他、前各号に規定する者と同等以上の知識と実績があると町長が認めた方

### 3 地域防災リーダースキルアップ講座

災害時に自主防災組織と連携し、中心的な役割を担う地域防災リーダーのスキルアップを目的に開催しています。

#### 【受講資格】

地域防災リーダーの方

災害時に大きな被害を受けやすいのは、安全に避難するために何らかの手助けが必要な「要配慮者」です。こうした人たちを災害からどのようにして守るかを地域で話し合い、協力しながら支援していきましょう。

## 想定される主な要配慮者

- 高齢者 (ひとり暮らし・高齢者のみの世帯など)
- 障がいのある人 (身体障がい者・知的障がい者など)
- 妊婦や乳幼児
- 難病患者や傷病者
- 外国人 など



### 安全な避難支援をする

耳が不自由な人には、身ぶりや筆談などで正しい情報を伝えましょう。目が不自由な人には、階段などの障害物を説明しながら進みましょう。



### しっかり避難誘導する

ひとりの要配慮者に対して複数の住民で支援するなど、地域で具体的な体制を決めておきましょう。



### 要配慮者の身になる

道路に障害物はないか、耳や目の不自由な人や外国人向けの警報や避難の伝達方法はあるかなど、要配慮者に対応した環境づくりをしましょう。



### 要配慮者に特に気を配る

非常時にこそ、困っている人や要配慮者に対し、温かい思いやりの心で接しましょう。



### コミュニケーションをとる

災害時の支援活動をスムーズにするためには、要配慮者とのコミュニケーションを日ごろから図っておくことが大切です。



### 防災訓練へ参加する

要配慮者と一緒に避難経路や避難場所を確認できます。また、避難時に要配慮者がどのような支援が必要となるのかを知ることができます。



# マイ・タイムラインをつくらう

「マイ・タイムライン」とは、台風や大雨等の風水害に対する事前の準備や行動をあらかじめ記録しておく予定表のことです。家族構成などに合わせて、「いつ」「誰が」「何をするのか」を決めておくことで、いざというときに慌てず、安全に避難することができます。まずは、マイ・タイムラインの作成手順を知っておきましょう。

### 自宅の危険度

ハザードマップで調べた自宅の危険度などを記入しておきましょう。

洪水浸水予想 m	地震の揺れやすさ 危険度
-------------	-----------------

私の避難場所は、

### 作業手順

ハザードマップをチェック

自宅が浸水想定区域内かチェック

自宅から近い避難所をチェック

自分だけのマイ・タイムラインを作る

開成町：_____家（_____自治会）マイタイムライン 作成：_____年 月 日

※開成町洪水ハザードマップとともに活用・保存してください。

### 平常時の備え

●自宅の状況を確認 自宅の浸水予想等について確認しましょう。  
浸水深  3m 浸水継続時間： 時間未満 自宅が浸水想定区域内にある。 はい いいえ

●避難する場所を確認 災害の危険が高まった場合にどこへ避難するか考えましょう。  
町内の避難所 浸水区域外の親戚・友人宅 自宅の2階以上（浸水想定3.0m未満）  
↳避難する場所： _____

●避難する場所までの交通手段  
徒歩 自転車 自動車 その他： _____（避難場所までの移動時間： _____ 10分）

●避難に必要な物資（避難の際に準備するもの）

- 飲料水
- 着替え
- 携帯電話の充電器（電池式）
- ビニール袋
- タオル

---

### 気象情報・避難情報

●気象予報

●雨量予報

●台風接近情報

●大雨・洪水警報発令  
**警戒レベル3**  
○高齢者等避難開始  
「危険な場所から高齢者等は避難」

●氾濫危険・警戒情報発令  
**警戒レベル4**  
○避難指示  
「危険な場所から全員避難」

●河川水位が急上昇

●氾濫危険水位に到達（酒匂川）  
**警戒レベル5（氾濫発生）**  
○緊急安全確保  
「命の危険 直ちに安全確保」

---

### 避難時の注意点

●避難の前に必要なことを考えましょう。

- ハザードマップで避難場所を確認
- 非常持出品の準備
- 薬などを事前に受け取っておく

★確認時のポイント  
「薬等の必需品を忘れず準備する。」、「ペットは安全な親戚宅に預ける。」等、いざ避難する際にすぐ行動できるよう注意点を確認しておきましょう。

●避難する際の注意点を考えましょう。

- 警戒レベル3発令後に必ず避難する
- 必ず2人以上で避難する
- 川沿いの道は通らない

★確認時のポイント  
避難場所までの経路にも危険な場所は潜んでいます。橋や浸水区域周辺は十分に注意しましょう。また、浸水し足元が見えない道路はとて危険です。陥没箇所等がないか、平常時に確認しておきましょう。

**ここまで避難を完了**

●避難が完了していない場合は直ちに避難を開始してください。

●避難途中の方は、周囲の安全な建物に退避してください。

●外への避難が危険な場合は安全な場所で待機してください。

※開成町洪水ハザードマップとともに活用・保存してください。

### ●マイ・タイムライン作成時のポイント

#### ①情報収集手段の確認

どういった手段で情報を入手するのかをあらかじめ決めておきましょう。  
※情報収集手段については、裏表紙を参考に検討してください。

#### ②とるべき行動を書き出す

「いつ、誰が、何をするのか」に注意しながら、取るべき行動を箇条書きで書き出しましょう。箇条書きで書き出した後は、マイ・タイムラインに時系列に沿って記入し、行動に無理がないか、どれくらいの時間を要するかなどを検討します。

開成町：_____家（_____自治会）マイタイムライン 作成：_____年 月 日

※開成町洪水ハザードマップとともに活用・保存してください。

### 平常時の備え

●自宅の状況を確認 自宅の浸水予想等について確認しましょう。  
浸水深  m 浸水継続時間： 時間未満 自宅が浸水想定区域内にある。 はい いいえ

●避難する場所を確認 災害の危険が高まった場合にどこへ避難するか考えましょう。  
町内の避難所 浸水区域外の親戚・友人宅 自宅の2階以上（浸水想定3.0m未満）  
↳避難する場所： _____

●避難する場所までの交通手段  
徒歩 自転車 自動車 その他： _____（避難場所までの移動時間： _____ 分）

●避難に必要な物資（避難の際に準備するもの）

- 
- 
- 
- 
- 

---

### 気象情報・避難情報

●気象予報

●雨量予報

●台風接近情報

●大雨・洪水警報発令  
**警戒レベル3**  
○高齢者等避難開始  
「危険な場所から高齢者等は避難」

●氾濫危険・警戒情報発令  
**警戒レベル4**  
○避難指示  
「危険な場所から全員避難」

●河川水位が急上昇

●氾濫危険水位に到達（酒匂川）  
**警戒レベル5（氾濫発生）**  
○緊急安全確保  
「命の危険 直ちに安全確保」

---

### 避難時の注意点

●避難の前に必要なことを考えましょう。

- 
- 
- 

★確認時のポイント  
「薬等の必需品を忘れず準備する。」、「ペットは安全な親戚宅に預ける。」等、いざ避難する際にすぐ行動できるよう注意点を確認しておきましょう。

●避難する際の注意点を考えましょう。

- 
- 
- 

★確認時のポイント  
避難場所までの経路にも危険な場所は潜んでいます。橋や浸水区域周辺は十分に注意しましょう。また、浸水し足元が見えない道路はとて危険です。陥没箇所等がないか、平常時に確認しておきましょう。

**ここまで避難を完了**

●避難が完了していない場合は直ちに避難を開始してください。

●避難途中の方は、周囲の安全な建物に退避してください。

●外への避難が危険な場合は安全な場所で待機してください。

※開成町洪水ハザードマップとともに活用・保存してください。